

## 平成 29 年度第 3 回八幡平市環境審議会 会議録

日 時	平成 30 年 2 月 16 日（金） 10：00 から 11：15
場 所	八幡平市役所 2 階ミーティング室 2-1
内 容	1 開会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 (1) 八幡平市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】について 5 その他 6 閉会
出席者	<b>【委員 12 名】</b> 竹原明秀委員、北村安委員、遠藤忠志委員、千田康洋委員、田中耕一委員、 片野正子委員、畑山勝美委員、大森貞子委員、瀬川俊夫委員、生原修委員、 鈴木勝之委員、高橋善裕委員 <b>【事務局等】</b> 岡田副市長 （事務局：市民課）佐々木市民課長、工藤環境衛生係長、佐藤主任、阿部主事
議 事	（1）八幡平市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】について

会議録	
	1 開会
市長	2 市長あいさつ 市長代理として岡田副市長があいさつを行った。
会長	3 会長あいさつ
	4 議事 (1)八幡平市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】について
(1)八幡平市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】について	
事務局	八幡平市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】（案）により説明。
	質疑応答
会長	ありがとうございました。修正点に関する別紙も皆さんに配られていますよね。
事務局	はい、事前に配っております。
会長	これを見ると今のご説明よりも更に多くの修正があるってことですか。
事務局	施設名の名称の変更ですとか、そういう軽微な変更でございますので、説明は省略させて頂きました。
会長	それではですね、まあ順を追って見ていきますので、今の修正箇所を含めまして、改めて全体を見て、皆さんからのご意見を伺いたいと思います。 第 1 章からで、一番最後に説明されたように、計画の期間とか、どのくらい減ら

	<p>すかというところが最初に書かれていますけども、まあ、どこからでもいいんですが。なかなか最初から見ていくのも難しいですけども、なにか気になったところとか、ご質問されて構わないですけども。</p> <p>新たに写真とかコラムが入りましたので、それもまあ、パッと見ていただいて、ちょっとおかしいなとかいうところがあればご質問していただければ。私の方から簡単なやつですけども、3ページのコラムでCOPの説明がちょっと心配だなっていうか。COPって締結会議のことだけなので、別にCO<sub>2</sub>の温暖化の会議だけではないんですよ。あくまでも締結会議の意味であって、他もある中で、温暖化の方に関しては十何回やっているということなんですよ。生物多様性の方でもCOP、今、12までいったかな。というのがあっていいんですよ。気候変動枠組み条約が中心ではないんです。</p>
事務局	はい、わかりました。そこは修正させていただきます。
会長	あとパッと見て、出典がまだ無いようなものも少しだけですがありますが、例えば19ページの、下の方の絵があるんですけども、まあ、家の断面図みたいなものがありますけれども、これもどこからか、イラストなんですけども。
事務局	はい、こちらの方も修正します。
会長	こちらの方も、やはりどこからか取ってきた場合できる限り入れないと後で、言われかねないですね。
委員	10ページの写真も、先ほど説明があったのですが入れておいた方がいいですよ。
事務局	はい、場所ですかね。左側が松川、右が水力発電です。
会長	もう少し水力を詳しく言うと、小水力と、従来のダム型の大型に分かれると思うんで、下の写真の説明だと小水力、上の説明だとあわせて水力発電ということになるんでしょうけども、それは再生可能エネルギーなんだけども、今後ダム等の大型のダムを作ることはたぶんないと思いますので、こういうものを導入、小型のものを導入する恰好のものが書かれてもいいのかなと思いますけれども。
委員	委員長。こういう県とか市の報告書というのは、元号をどっちにするんですか。両方併記するのは今普通なんですか。2000何年とか、平成何年とか。これみんな併記されているんですけども、これ国全体としてどういう方向なんですか。
会長	基本的には元号法を用いれば平成とかですね。役所の中の書類的にはですね。
委員	まあ、丁寧で見やすいんですけども、1998年（平成10年）と書かれてていいんですけども、来年元号が変わるんですよ。平成60年じゃなくなるんですよ。その、ただお役所は元号が中心になっているのかなと、西暦でどうですかね。
岡田副市長	過去に、昭和から平成に変わった時に総務省がどっちを使ってもいいよと、住民票の何月何日証明っていうのがありますけども、どっちを使ってもいいんですけども、まあ、文面から見るとなるべく、あの、和暦を使ってもらいたいという方がありまして、和暦に今やっているんですけども、頻繁に元号が変わりますと、今でも平成とかって昭和に足し算しないといけないものですから、これからは両方併記が望ましいかなという印象を受けたんですけども。

会長	ただ、日本の場合、伝統というのがあるから、跨いでしまうのが物凄く違和感があるんですけども、ものによっては年単位と年度単位でも両方、あるんですよ。ま両方併記となるとなると表の中で、例えば、11 ページなんかは、全て平成何年っていう表記があって、統一するのであれば図表の中にも統一があれば、ちよつとうるさいですけどもね。先に西暦が出ているのであれば、図表を簡略化するのであれば西暦だけにするとか、統一が好ましいです。
事務局	分かりました。一般的にはこの表紙の部分は元号表記が一般的ですので、内容については国の計画書なりを参考にして、両方併記させていただいております。会長のご指摘についてはご検討させていただきたいと思います。元号が変わった場合は、修正という形で、ホームページ等で変更をかけて公表したいと思っております。
会長	ほかに何かございますでしょうか。最後に新たに追加された部分がありますよね。家庭における部分とか、もう一度皆さんに提示して、実際の行動ですか、何ページから新たに追加でしたか。
事務局	57 ページです。
会長	57 ページに具体的な数値が書かれていますけども。58 ページの下の家庭でたくさん使っている電化製品は2009年のもので、なかなか最新の情報とかないですかね。
事務局	なかなかこのような調査は、やっていないみたいですね。
会長	そうですか。
事務局	これが最新という形になってまして。確かに、この時期から比べますと、LED化も進んできておりますので、若干といいますか、照明機器のところとかも割合も減少しているのかなと思いますけども、如何せんデータが無いので一つの目安ということで捉えていただければと思います。
会長	書かれているものも、ビデオレコーダーとかですが、むしろ携帯電話の充電器の方が大きいとか、なにかあるのかなと思ったのですけれども。それで、下に月ごとの電力量が書いてあるんですけども、一年間を通した電力量の変化の表とかはありますか。全体的に今、減少傾向なのか増加傾向なのかというのは、どこか他のページにありますかね。内訳書いてあるのは分かるんですけども。
事務局	現在、ここには無いんですけども、こちらで集計致しまして、追加で、そのような資料を記載したいと思います。
会長	図を見るとなんとなく減少しているようには見えるんですけどね。折れ線グラフが下に新しいのが入っているんですけども。まあ、それじゃないと目安として今やっている、省エネ、皆さん方がやっているのがある程度形として見えてくるのかなと思うので、今後ともこれを継続するというイメージにはなるかと思うんですけども。あと、冷蔵庫とか照明とか様々具体的なものが書かれてますが、これは、経済省の資源エネルギー庁の数値ですよ。この様に数値が出ている場合、これがどういう意味なんですかね。家庭といった場合には、何人世帯、標準家庭なんですかね。標準家庭が4名というのもおかしいと思うんですけども。

事務局	人数の設定については資料の中で見つけていません。
会長	そうですか。例えば冷蔵庫、全て行動をやってしまうと、電気料金が戻ってくるんじゃないかという感じですね。これ全部計算すると。この数値ってのが、どうして出てきているのか未だによく分かんないですけどもね。多分一つの家庭当たり年間、電気量ってどのくらいあるんですかね。7、8万とかですかね。月平均1万円くらいとかですかね。その目安があって、そういう数値が出ていて、この数値が出てくればいいですけども、これを全部本当に計算すると、電気料金を払わなくてもいい、これはあくまでも、節約金額なので、減らせるよ、でもベースはあるよ。なんか前提がないとよく分からないですけども。
事務局	探してみまして、家庭ごとの平均電気使用量みたいな形なものを追加して、その物ごとではないんですけども、追加したいと思います。
会長	あんまり難しく考えなくてもいいのですが、前提がいつもこういう表を見ると過大評価なのかなと思いますけども、いずれにしても、これはやるべき省エネかとは思いますが、ただよく話で出てくるんですけども、LEDに変わったので節約になった、節電になったと。ただ、逆にいうとその分他の場所に電気を追加するみたいな。要するに、電気料金のベースは同じ分だけ考えて、省エネになった分だけ、更に、増やして行くという傾向がどこにでもあるとかっていう話ですね。地球全体の明るさがどんどん明るくなってきてますよね。ただ省エネ、LEDに変えたのが、それで終わりにすればいいのにですね。
事務局	数を増やしていくとかですかね。
会長	それは今、あれですよ。安心安全とか防災とか、様々なことで使うような傾向があるんですけど、それをどこまで制御できるかどうか、というのが凄く心配なんですよね。特に防災といえど何でも通るといような感覚があるのかなって感じがするんですけども。まあ、その辺は、今はここで議論するようなことではないんでしょうけども。あの、やっぱり省エネしたからは、それを貫き通す方向でいかなきゃいけないという思想が必要かなとは思うんですけども。皆様方は如何でしょうか。量が多いかと思うんですけども。
岡田副市長	私、あの、追加したっていう57ページから、各家庭の数値がかなり説得力がある。家庭もこのように節約できるんだという例示を載せていますので、これをホームページ、広報もさることながら、やはり見ない人も中にいますので、例えば、地域振興課でやっている出前講座をフルに発揮して地域に入って行って、こういう風な具体例で、婦人の方々が生活を実際に切り盛りされますので、そういう風な場でPRされた方が意識啓発になるので、そういう風な出前講座の活用についても計画の中でちょっと考えていっていただきたいなと思います。
事務局	はい。副市長のおっしゃるとおり、この計画をいかに、市民に、行動していただくかということでは、啓発が一番だという風に思っております。ゴミの方も、分別辞典を合併後で初めてリニューアルして今作成して3月に全戸配布する予定ですので

	で、ゴミの方と併せまして、こちらとセットで出前講座をするなどというのも考えていきたいと思っています。
会長	そうですね、これは、CO <sub>2</sub> の削減量っていうかたちで、実際にはお金の話ですよ。
副市長	そういう魅力的な話をしないとですね、つまらないだけの説明会になりますので。
会長	CO <sub>2</sub> の問題、最大の問題は目に見えないですね。CO <sub>2</sub> に色が付いていれば、色の濃さとか、あそこはたくさん出しているとかが分かるんですけど、目に見えないのはやっぱり扱いづらいですね。だからそれをお金に変えるのは少し具体的に分かって思っていて、出していただければいいかと思っておりますけども。特に、家庭外のこともあるんですけども、63 ページには自動車、62 ページにトータルの省エネ電気製品の種類があるんですけども、63 ページの方にエコドライブの実施というのが書いてあるんですけども、本当は、もう少し何かあればいいかなという風に思うんですけども。車も省エネの手段ということで、ここではないんでしょうけども。こういうのははっきり出していただいて、市の自動車の普及率ってのはどれ位あるんでしょうかね。分からないですかね。
事務局	自動車の普及率ですか。
会長	一人一台弱位あるんですかね。ならずと。それだけで相当大きいと思うんですけど。
事務局	事業所の車も含めると、一人一台以上はあるかと思うんですが、統計を確認してみます。
会長	はい、如何でしょうか。
岡田副市長	エコドライブとか先生が言われましたけど、役所の車、消防自動車とかそういうのを除きまして、全部集めますと、大体 270 台を超える台数になります。やっぱり、e スタート、これを徹底して、車台数だけじゃなくて維持管理費を考えた場合、ちょっとくらい高くても、後で維持管理費が少なくなるように、それから CO <sub>2</sub> の削減を考えていくことが事業所としても気にかけてきてるのかなと思っています。
会長	はい、そうですね。減税とかは、まだ続くんですかね。
岡田副市長	そろそろ、軽自動車がか 13 年までは安い税金で軽自動車税が、13 年を超えると高くなる制度があるんですけども。実際どうなるんですかね。
会長	さっき LED の電気の話をしましたけども、それ、税金とかなんかが免除されると、もう一台買おうみたいな発想にどこでもなりかねないんですよ。今安いからとかいって、だから電気以外の所で少しお金をセーブして、新たにもう一台という発想に行かないようにしなきゃいけないんですよ。これは、エコドライブのところには書いてないんですけども、基本的には不要な自動車の使用はしないというか、前に、近くの場所では乗らないとかは、書いてあるんですけども、そういうのもここにもう一回書いてもいいかもしれないです。運転マナーなんですけども、段取りっていうか不要なといいますか、できる限り、使わないようにということも、入れておいていいかもですね。
委員	今、見てて、ふんわりアクセル e スタートで 1 万円も節約になって、こんなにな

	<p>るか。なんか簡単に。今、ちょっと目についたから。全体でなんぼ節約になるって数字で出てこないと分からない。</p>
岡田副市長	<p>メーカーによっても違うのでしょうけれども。大体平均で。</p>
会長	<p>ただ、金額換算したことないんですけども、私、普通のワゴン車に乗っているんですが、あの7キロ、リッター7キロ平均燃費が出てたんですけども、この、ふんわりアクセルスタート、青になっても少しこう惰性で走り始めた後にアクセルを踏み始めれば燃費が良くなるよということで、現在、7キロから9.6キロまで燃費が伸びて、やっぱり運転の仕方、ただ、本当にそうというのは実際には、行ってませんので。</p>
事務局	<p>只今のお話で、資源エネルギー庁のデータといたしますか、表を見て作成したわけですが、元々、年間の走行距離なり、使用燃料の量ですか、それがいくらで、それが基になってふんわりアクセルスタートを行った場合、今、83.57リットル削減できるというようなところのデータをですね、整備させていただいて、盛り込めるようであれば、そこも表記したいと思います。</p>
岡田副市長	<p>よろしいですか。問15の1つ目なんですけど、バスについては、試験運行で西根から出て、安代を通ってくるってということでスタートしたのですが、やっぱり安代から来て、マックスバリューなどで買い物して戻るのがいいっていう風な、結果が出まして、今、逆運送しています。田山を出発しまして、西根病院まで来まして、西根病院からまた、田山に戻るような、そういう風な運行に変えまして、トイレタイムと称しまして、スーパーにも寄れるように、30分位だったかな、確か30分位だったんですけど、寄れるように10月だかに現在改善して、試験的にやって、3月になれば様々な意見が頂けるかと。なるべく空バスを出さないということで、実は花輪線がこの時間帯1本も無くなって、それで花輪線対策のために始めたんですけど、なんとか、乗っていただければ有り難いなっていうところなんです。</p>
委員	<p>地元商店が、そうすると寂れますね。</p>
副市長	<p>どういう物を買物するのかまで、捕まえてませんが、実際その1時間も買物時間設けていませんので、そこのところは試験運行で考えて頂けないかなと思ってます。</p>
委員	<p>便利になって女性の方々が利用している感じですよ。団体さんの乗り物の感じに見えた時もあります。</p>
会長	<p>まあ、計画書だって、十年二十年先の話は、この時点での話ではあんまり必要ないのかなって気はします。これは各課の方で取り組んでいただければいいかと。関係ないですけども、下のページですね資料1というやつと、タイトル1の資料1とかっていうやつは同じ表記だと、これは、ページの見方多少、資-1とかなんか別の表記にしなきゃね。これを見て資料4はどこか探してしまっ。</p> <p>アケートまた何年後かにやるんでしたっけか。書かれてないんですか。</p>

事務局	あの、中間の見直しの時にですね、検討していきながら考えていきたいと思っています。
会長	中間っていうのは、2019年ですね。5ページに書いてあるように、中間検証でやるわけですね、2021年に見直しと。これ市の総合計画とやはり同調はしているんですか。
事務局	計画期間としてはリンクはしてないです。
会長	してないですか。国が2030年度とかってなんか出されるんですか。
事務局	国の計画期間に準拠してました。
会長	ちょっとあれだったのがパブリックコメントがなかったということなんですけども。実際これを見に来られた方とかがっているんですか。例えば、役所に置きましてですね、ここに閲覧とか、そういうなんかそういう方とかいたんですか。
事務局	いなかったです。
会長	いなかったですか。ホームページの方には書かれていますね。こういう計画が。見てすぐわかりますかね。要するに、他のところでは凄い何度も何度もめくらないとそこに行かないっていう。割とこういうコメントを求めるのは本当は最初のページとかなんかに。
事務局	トピックスということで、最新情報の中に含めましたので、ホームページを開いた時には一応最初の画面に出るようにはしてありました。
竹原委員長	どれくらいの方が見られたかって、ちょっと分かんないですかね。
事務局	はい。
岡田副市長	このタイトルで多分みなさん、地球温暖化対策実行計画っていう、かたいタイトルで、これが後ろの、あなたも省エネいくら節約できるとか、そうするとまた違ってくると思うんですが。しょうがないね、もう。
会長	ただ、奥付でこういう風を書いてあるのが表紙に出てこない。せっかく地球環境に配慮とかって書いてあって。これがタイトルではないんですかね。副題ですかね。これも確か出てこないんだよね。
事務局	こちらの副題っていいですか、こちら表の方に載せるようにいたします。
委員	会長前回おっしゃっていた、地球温暖化云々っていうのは、最終的には、家庭内の節約にしか繋がらないっていうご意見をいただいたと思うんで、もしそうであればですね、市民に伝えるんだったら、家庭でできる節約、節電ということで何か、推進された方がいいんじゃないかな。これをやれば地球温暖化防止に繋がるという、関係性を持って説明されたらどうかと思います。資料1のアンケート調査の結果をですね。で、何が分かったんですかっていうことですね。アンケートっていうのは、何かを知るために調査するわけですよ。多分、市民の環境に対する意識調査をされたんだと思うんですけど。だけど、あるようで無いようで。結局、アンケートして何が分かりましたかね。そこはこれから、どう対処していきましょうねとか。市の方で考えられた方がいいと思いますかね。市のこれを作られた方の中では、こ

	<p>のアンケート結果をもって、多分、議論されたと思うんですよね。市民はこういうことを考えているんだろうな、こうしなきゃいかんだろうかなとか。でも、文面としてどっかにあってもいい気もしますね。もっと環境問題について積極的に促していこうとか。</p>
事務局	<p>ただいまの、アンケートの結果についての文章といたしますか、文面としてまとめたのが、14 ページと 15 ページの本文の方に、まとめさせていただいております。多くの項目の部分について個別には触れていないんですが、アンケートを踏まえたくえで、調査結果の概要ということで、市民、事業者アンケート別々にまとめさせていただきます。</p>
委員	<p>環境問題の関心の 83.8%は高いんですか。高かったら市民パブリックコメントが、ゼロというようなことは無いと思うんですけど。だからそこは、高いという風じゃないんじゃないですかね。なかなか浸透しづらいと正直に書かれた方がいいんじゃないですかね。</p>
会長	<p>一番は回収率の問題なんですよ。多分これは、29%の市民が 3 分の 1 しか来ないっていうのは、やっぱり低いですよ。やっぱり、普通有効にそのアンケートが活用できるのは 40 とか 60 位いかないと正しい評価にならないかもしれない。だから、回答されてる方は関心が高いんだけど、実際には、まだ、こういうところで目に向いてない方々が多いので、そちらの方をアピールする必要があるんだという方向に持っていかないと。それに対して事業所の方は 54%なんだけど、これも実は低いんですよね。事業所こそまさに環境に配慮したことをやっていかなきゃいけないので 54%で、半数はやはり関心無い事業者だなんて、逆にいうと認定されてしまうかもしれないですね。規模の違いとかなんかも多分あると思うので、本当はこういう分析とかする時に男女別とか、企業の従業員数とか、なんとか業とか、そういう規模の物なのか、とかという、そういうのが少し入れればもう少し解析的にはいいんでしょうけども。まあ如何せんもう少し。数字が集まれば、そういうところはいくんでしょうけども。</p>
事務局	<p>他の、市が行っている色々なアンケートがありますが、他の方のアンケートを見ると、30 から 40%ぐらいの回収率、高くても 40 ちょっと位かなという風に見ていましたが、それに比べても若干、回収率は低かったかなという風に思います。おっしゃる通り、関心がある方がアンケートに回答していただいたのかと捉えておりますけども。</p>
会長	<p>その時も、この温暖化対策のアンケートに書かれてしまうと、多分、分かんないので、あなたの省エネはどうですかみたいなことでやれば、もう少しはあったかもしれないですね。まあ、それは難しいかもしれませんが。そういう意味では、広報のことを頑張ってやっていただいて、関心を高めるということが一番重要なのかなって気がしますけどね。色々、学生とかなんかに環境の話をやるというか、学生が色んな研究とかやってく中で、いい話しか出てこないんです。いい話っていう</p>

	<p>のは、何とかの研究、例えば、省エネの研究やりますという時に、成功した例しか、世界のこの場所ではこうなりましたとか。ほとんど成功はしていない。ましてや取り組まないというのが実情なんで、成功例出されても実は、それ使えるのって話が出てくるんですよね。まあ、そういう意味で、成功例は必要なんでしょうけども、実際にはやられてないところが、どうしてやられないのかってところを本当は調べてもらうのが正しいやり方かなとは思ってますね。その中では、先ほどの木質エネルギーとかなんかは学生なんか調べてくれると、ドイツなんかではチップ燃やしますよとあって、企業化ができて、さらに工場の誘致ができて黒字になった市があるとかって話。それは日本中どこでもそれは対応できるかということ、まずありえないので、やはり八幡平市としては先ほどの農業と林業といいましたかね、それを生かしたもの。それを中心に環境を改善をしていながら、プラスのメリットが出るような、なんか、考え方を少しは加えていかないといけないかな。そうしないと、なかなか関心は上がらないのかなという風には思うんですけどもね。まあ、実際に、林業が成り立っているんでしょうか。私はよく分からないんですけども。県内だと住田町の話がよく出るんですけども。それは、気仙杉があるからとか、ブランド化みたいなものがないと、どこでも成り立たないのかなって感じがして、だから、これやる時にはやはりそういう産業界に關すると、リンドウとかあるとは思いますが、積極的に色々アピールしながら、儲かる環境改善みたいな方向にしていけないといけないのかなという感じがしますけども。今、言ったみたいに住田町の話とか、あとはメダカの話とかで、どこでしたっけか、一関の方で、お米のメダカ米っていうのを作ったら、価格が相当高くなって儲かるようになったという話をしているんですけども。その時に、環境をメインとした産業化ですね。それがあれば、もう少しいいのかなって感じがするんですけども。温暖化に上手く対応するかどうかは分からないですけども。</p>
<p>委員</p>	<p>今、県では森林伐採した後に補助金をいただいている。植林をタダで、好きな苗を。仮に杉とかカラマツとかですかね。今、カラマツが一番人気ある。ということは、集成材。建物をコンクリートでなく、木材で作らしようっていう感じのが多くなってきているものですから。そういう集成材が凄く高く売れる。うちでも玉山の成島さんから買った、毎年十町歩ずつやっているんですけども、十町歩ずつやってもまだ百町歩以上ありますから10年もかかる。あんまりかかり過ぎるなって。もっと早く補助金やってくれませんかて話してました。もうそれは3年間やってる。それはありがたいことなんですけども。まあ、そういうこともありますし。ですから国でもそういう形で。あとほら、一人1000円ずつ納めて、国でそういう林業関係で税金徴収するっていう二百何十億だか集まると思いますけど。ですから、そういうことやってくれば環境的によくなるのかなって思いますけど。</p>
<p>会長</p>	<p>ただ、県でも今、やっていますかね。どうするんでしょうかって話は。どこでも出てますよね。岩手県以外でも各県で今、森林材やっているの、だから国がいきな</p>

	り出してくるのがなんか変だと思うんですけど。カラマツも 30 年後に高値で売買できるかどうかも分からないので、すぐ植えても出来ない林業の最大の問題ですよ。
委員	まあ、それはありますね。
会長	自分の代で元が取れないっていうのが。
委員	会長、教えて欲しいんですが、風力発電というのは岩手県内では盛んなんですか。
会長	盛んといいますか、空いている場所が沢山あるので、殆どの山は、全部、色んな風力会社が押さえているっていうか。
委員	葛巻にあります。葛巻の風力発電基礎工事やっています。
会長	実は、環境アセスメントの中に風力発電を対象に入れたのが数年前なんですけども、その前に駆け込みでたくさん入ってきて、それが本当に岩手県の山、全部建っちゃうと 100 基以上建っちゃうというくらいの計画があるんですよ。
委員	大丈夫なんですか。
会長	大丈夫ではないと思うんですけども。これも学生が色々そういう風力の効率とかを調べていると、非常に悪いらしいですね。ヨーロッパは効率良いんですよ。洋上発電とか風力とか。それに対して日本は風向が一定していないとか、山の上でメンテナンスが大変だとか、発電効率が非常に実は低い。それをずっと考えていくと補助金目当てとしか出てこない感があるって話もしているんですけども、実は、まだ設置してから 30 年 40 年経ってないので、どうなるかってのは実はよくわかりません。
委員	あまり効率が良くないんだ。
会長	そうなんです。実はよくないんです。ただ、自然性っていうか、自然のエネルギーだけだけのふれこみなんで。
委員	結構、羽が折れて大変なようですね。外国産のをもってきたから。
会長	ちょっと前に羽も折れて落ちたりとか、渡り鳥が突っ込んでしまったりとかっていうのがあったりだとか、折れましたね釜石でもね。それを想定外の話で今まで話してたんですけども、今はそこまで考えないと本当は建てるの大変かなっていうように思います。
委員	テレビでやっていましたね。
会長	ただ、今、久慈の方で洋上の一応計画が前々から出ているんですけどもね。それも成功例が、成功例っていうか、茨城県の方で津波で打たれたというのがあるから、今後は洋上についてのものがあるんですけども、果たして乗ってくる企業があるかどうかは分かりませんが。その時、必ずエネルギーの地産地消という言葉で言われるんです。だからこの中でそういう言葉が出てくるかは分かりませんが。エネルギーの地産地消。多分、岩手県は消費県ですね。エネルギー生産、電力生産県じゃないですよ。自分の県内で電気発電をできない。原発も無ければ火力も無い。なので色々な所でもっと発電しなきゃいけないっていうのはあるのかもしれませんが。その時には地産地消という言葉が今は中心になってくる。

岡田副市長	せつかくですので、鈴木委員。林業の署長ということで。
委員	先ほど遠藤さんの方からもお話しありましたけども、1000 円のその森林環境税です。大変全国的にも注目浴びてますけど。やっぱりペイをしてないので植林が進まない。それが一番の要因だと思うんですけども。CO <sub>2</sub> の対策含めてですね、それは実現されたらいいのかなと思います。
会長	<p>国有林の森林に関する CO<sub>2</sub>の吸収は、市町村の数値に入っていないんですね。確か。県の議論でやった時もそうなんですけども、国有林の吸収量は入っていないで、要するに県レベルだと私有林。個人の林の計算をやっていると言っていましたんで、なんか実際に八幡平市の中の国有林と、他の地域とどうなっているかは分からないんですけども。まあ、難しいですね。そのへんも。だから、国の分も除いてでも、市なり、個人の分なりに関しては積極的に CO<sub>2</sub>を減らす努力をします。</p> <p>あまり中の話はなくて、一応、予定の時間の 11 時 15 分になってきたんですけども、特にこれってのはありますでしょうか。これ、今後はどうするんですかね。今の意見をまとめて。これ発行日が書いて無いんですけども、3 月末に発行という恰好ですかね。</p>
事務局	そうです。今後のスケジュールとか進め方なんですけど、この審議会で頂きましたご意見を踏まえて、3 月 2 日に庁議という市長を含めて、庁内の会議があるわけなんですけど、そちらの方で計画決定をするという段取りで進めさせて頂きたいと考えております。3 月 2 日にまた意見を頂いて、3 月中旬までには計画決定と考えております。
会長	そしたら、多少、もし皆さんからご意見があれば直接事務局の方にも、若干まだ時間的にはご意見出せますね。
事務局	お願いします。
会長	2 月。あと 1 週間とか 2 週間くらいですか。10 日間くらいはなんとかなりませんか。
事務局	23 日くらいまでにお願ひできればと思います。
会長	<p>はい、何かあれば 23 日までに連絡入れていただければ。あまり難しいことを質問されても対応できないかもしれませんがね。まあ、大筋でこの中身で進めるということで、皆さんご了解いただければと思いますけども。よろしいでしょうかね。</p> <p>はい。じゃあ、私の議事進行はこれで終わらせて頂きます。</p>
	5 その他 いわてわんこ節電所パンフレットの説明
	6 閉会

